



高原の自然館ニュースレター

苜尾電波塔

第 23 号

2005.11.1

高原の自然館

苜尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつけています。

もくじ

おしらせ

- 『芸北 草地シンポジウム
-草地がつなぐ人・文化・いのち-』
を開催
- 第 4 回八幡湿原再生協議会が開催

活動報告

- 深入山の植物
- サツキマスの産卵
- 鳥の観察会
- キノコの観察会

読者サロン

- テーマトーク
「冬間近！これがあれば寒い日も楽しい！」

観察会案内

- 冬鳥の観察会
- 木の実と冬芽の観察会
- 環境保全活動 -千町原の草刈り-

花だより

- セイタカアワダチソウ
- 木の実

おしらせ

『芸北 草地シンポジウム -草地がつなぐ人・文化・いのち-』を開催します (2005.11.19)

2004年11月に行った千町原の保全作業(草刈り)を今年も行う予定ですが、これに先だって、芸北に残された草地の自然や保全の意義、活用の方法などを探るためのシンポジウムを開催します。

かつては全国土の1割以上の面積を占めていた草地が、今日ではわずか3%にまで減少しています。その背景には、農業の変化(牛馬からトラクターへ、たい肥から化学肥料へ)やエネルギーの変化(薪から石油燃料へ)があります。こうした人間活動の変化によって失われた草地では、住みかを奪われた動植物に異変が現れています。広島県の中でも比較的まとまった草地が残る芸北で、草地をめぐる文化や生物について考えてみませんか？

第4回八幡湿原再生協議会が開催されます

(2005.11.26)

11月26日13:00より、「八幡湿原再生事業」における検討協議会が北広島町役場 芸北支所にて開催されます。西中国山地自然史研究会が行ってきた、土嶽地区での取り組みが大きな流れになろうとしています。一般の方も傍聴できます。

活動報告

深入山の植物観察会

開催日時：2005年10月2日（日）9：30

講師：和田秀次

一週間前の雲月山と比較して、植生がどのように異なるか、というのが今回のテーマでした。かなり強い雨が降っていましたが、雷は鳴っていませんでしたので決行することにしました。秋の花には少し遅かったようですが、キキョウ・シラヤマギク、ウメバチソウ、アキノキリンソウ、モリアザミ、ハバヤマボクチ、マツムシソウ、フシグロなどの花が見られました。雲月山ではまだつぼみだったセンブリも花を咲かせていました。山頂に着くころには雨が強くなりましたが、なんとか小屋に到着、昼食を取りながらホッとしたひとときでした。下山時には少し雨脚も弱まり、ゆっくり下っていきましたが、林内では花が少なかったようです。ふもとは15:00くらいに到着し、一人ならやめてしまうかもしれない天気でしたが、みんなで歩いて、普段は見られない景色がみられた観察会でした。

[しらかわ]



ふもとは、ウメバチソウを保護している場所があるので、じっくり観察できた。



今年の雨の影響だろうか？登山道にいくつか倒木が見られた。



駐車場で事前説明と準備運動。



コルク質の樹皮を触って確かめる。



ずいぶん登ってきた。ここまで来ると高木は見られなくなる。



山小屋での昼食。雨脚が強かったので、ほっと一息。



今から咲くキキョウ。かわいい。



右手にゼリー、左手でヒキガエル・・・。



山頂では横殴りの雨が降っていた。



山頂とは違い、ふもとでは雨が弱かった。

活動報告

サツキマスの産卵観察会

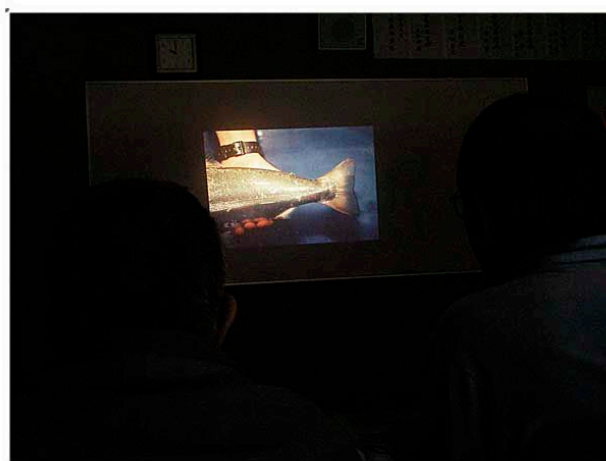
開催日時：2005年10月8日（土）9：30

講師：内藤順一

毎年恒例のサツキマス観察会ですが、今年はいにくの雨でした。特に早朝には強く降ったので、朝のうちは川が濁っていました。ともあれ、まずは八幡高原センターでスライドとビデオを使った、とても丁寧な講義を受けました。特に今年はカワシンジュガイについてのお話もあり、幅のある講義だったような気がします。講義の最後には、サツキマスの遡上の妨げになる問題や、移入種の問題についても議論が交わされました。外に出てみるとまだ雨が降っていたのですが、一応行ってみようということで現地に向かいました。現地に到着してすぐに、何人かの人々が橋の下に姿を見たようですが、すぐに堰の下に入ってしまったそうです。川の水は透明度が低く、思うように観察ができませんでした。しかし、もう一つのポイントでは水が澄んできており、観察することができました。産卵床を作っているメスとペアになったオス、さらにはスニーカーも見られ、結果的に例年よりもじっくりと産卵行動を観察できました。夕方に、産卵床を作っていたペアを見に行った人もいたようですが、この日は結局産卵しなかったそうです。それにしても、半日もずっと川底の砂を掻いているメスはすごいものです。 [しらかわ]



まず、八幡高原センターで講義していただいた。



はじめにスライドによる解説。



続いてビデオによる解説。産卵のことだけでなく、撮影の苦労話も聞くことができた。



後半はカワシンジュガイについても講義していただいた。



大雨の時には上ることができるが、先には越えられない堰がある。必ずしも良い環境とは言えない。



雨のために濁って見えにくいですが、橋の下でサツキマスが見られた。



もう一つのポイント。脅かさないようにそっと近づく。



覗き込むが、もぐってしまったようだ。



ここではペアが見られ、メスが砂地を擦る様子を観察できた。

活動報告

鳥の観察会（鳥類相調査）

開催日時：2005年10月9日（日）8：30

講師：上野吉雄

昨年の調査とは時期を1ヶ月遅くしての開催です。講師の上野先生は昨晩から続けて調査しており、集合時刻には捕獲した鳥を持っておられました。これらの鳥は体長や体重を計測した後、足環を付けて放鳥されます。バンディング調査は許可を得た「バンダー」しか行うことができないので、それを間近で見ることは貴重な経験でした。それに何よりも、間近で鳥を見るのはスコープを通して見るそれとは違い、体の特徴などもよく分かります。計測・放鳥した後は、全員で土嶽付近を歩きながら、確認された鳥を地図上に記していきました。土嶽ではホオジロ、ヤマガラ、エナガ、ヒガラ、コゲラ、シジュウカラ、メ白、ウグイスなど、森林生の鳥がほとんどでしたが、草地の残っているほんの一部ではノビタキやキジが見られました。今回のバンディング調査では、千町原では草原生の渡り鳥が捕獲されたのに対し、土嶽では森林生の鳥だけが捕獲されました。ほんの数メートルしか離れていないのに、渡り鳥は土嶽を全く利用していないということです。かつては湿原だった場所が藪になり、渡り鳥には全く利用できない環境へと変わってしまっていることが端的に表れた結果でした。今後、湿原の再生事業が進めてゆき、事業の評価をするための貴重な資料がまた一つ増えました。

[しらかわ]

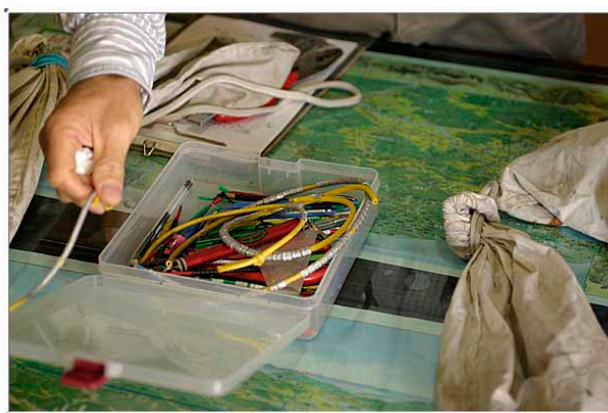
今回の調査に先立ち、藤原俊二さんと杉原崇晃さんに調査地の草刈りをして頂きました。ありがとうございました。



はじめに室内で、この調査の意義について説明を受けた。



各部を手際よく計測する上野先生。



鳥の足に付ける足環。すべてに記号が振ってある。



かすみ網に鳥がかかる仕組みを聞く。



土嶽では茅場はほとんど残っていないが、わずかな茅場にノビタキがいた。



道路を横断するキジ。



えーっと・・・



歩きながらのセンサスも行った。



土嶽で確認されたのは、ほとんどが森林生の鳥だった。

活動報告

キノコの観察会

開催日時：2005年10月9日（日）13：00

講師：山手万知子

久々のキノコ観察会には、地元からもたくさんの方が参加がありました。自分の持山に生えるキノコでも、知らないものばかりなので知りたい、ということのようです。今回は、そうした地元の方は自分の山へ、その他の人は公有林でキノコを採取しました。探している時はあまり無いようでも、最後に持ち寄ってみるとたくさんの種類が見られました。特に、はじめに解説があったナガエノスギタケや、信州で特に好まれるハナイグチなど、大きなキノコも見つかりました。キノコの見分け方に関する迷信や、学術的に未解明な点が多いことなど、興味は尽きません。観察会の後、山麓庵で試食会をしました。今回は、キノコが少なかったようで、ウスヒラタケのみ、おいしく試食しました。 [しらかわ]

事務局の方で段取りが悪い点があり、ご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫びいたします。



先生からはキノコの取り方などのレクチャーを受けた。



ススキの揺れる千町原を進む。



やる気満々の参加者一同。



採取だけでなく、撮影も。



ナガエノスギタケは、モグラのトイレから発生するキノコ。



たまたま通りがかった人も見に来たりして、自然館の前は騒然となった。



今回、ちょうど旬だったハナイグチ。



先生のお話に耳をかたむける。



銘々の取ったキノコを集めての同定会。



同定会の後にはキノコ料理。

このコーナーではみなさんから頂いたお便りをご紹介します。今月はお便りが無かったので、自然館スタッフのコメントのみです。サミシイ・・・。

テーマトーク

今回のテーマは、『冬間近！これがあれば寒い日も楽しい！』です。それでは、コメントを紹介します。

●柳崎からのオススメ

寒いときは防寒が大切で、基本です。それさえ、おっくうでなく、整えさえすれば寒さなんかへっちゃらです。とりあえず、足下から始めると藤本コーポレーションの発熱ソックス（通販生活で買う）です。そして ミズノの発熱インナー「ブレスサーモ」。近頃のシャツは薄くて見た目スマートに装えます。おなかも冷えないようにしっかりインナーズワップ（今年発熱タイプを買う）をはいて…。そうして、寒さが増すごとにいろいろ着足していくと寒い冬なんかへっちゃらです。最近では着る物がずいぶんよくなったから、以前は10枚くらいはふつうに着込んでいたけど枚数減りました。

●藤原からのオススメ

長靴。インナーにスポンジやボアなどを張ってある長靴は必須アイテムです。近ごろ、ちょっとおしゃれなものもありますから、雨、雪の時もちょうと外に出るときは長靴……。足に張るミニカイロも良いです。

●河野からのオススメ

さむ～い冬のマストアイテムは『ショウガ』です。紅茶に入れたり鍋に入れたり欠かせません。体の中からじわ～と温くなります！冬に寒いのはショウガないですけどね・・・(>_<)

●しらかわからのオススメ

ミトンにもなる指だし手袋。細かい作業をするには指が出ている手袋が良いのですが、それでは寒い。そこで、手の甲あたりに指部分をすっぽり包むカバーが着いている手袋があります。このカバーをかけるとまるでミトン。普通の手袋よりも、見た目がカワイイので気に入っています。

次号のテーマは『今シーズン、印象に残った花』です。ここ数日、夜空を見上げると銀河の向こうまで見えそうなほど空が澄んでいます。それと同時に冷え込みも厳しくなり、冬の気配がすぐそこまで近づいていることが分かります。今回のテーマは、寒い冬こそ外で楽しく過ごすための道具を募集します。

いよいよ花もなくなります。今年はどうんな花に出会いましたか？はじめて見た花、今まで気付かなかった魅力を発見した花、うまく写真が撮れた花、痛い目にあった花(?)など、あなたの2005年を象徴する花を教えてください。写真もあれば添付してくださいね。

観 察 会 案 内

冬鳥の観察会

開催日時：2005年11月6日(日)8:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：山を歩ける服装、弁当、雨具、双眼鏡、図鑑、メモ、おやつ等
定員数：30名
参加料：300円(自然史研究会会員は100円)

冬を目前に、渡り鳥たちがやってきます。この観察会では、草原や農地に見られる冬鳥を観察します。引き続き木の実と冬芽の観察会を行います。

木の実と冬芽の観察会

開催日時：2005年11月6日(日)10:30
集合場所：高原の自然館
講師：斎藤隆登
準備：山を歩ける服装、雨具、ルーペ、図鑑、メモ、おやつ等
定員数：30名
参加料：300円(自然史研究会会員は100円)

野山の花もほとんど無くなると、生き物たちにとって厳しい冬がやってきます。来るべき冬に備え、植物たちは様々な方法で冬を越す準備をしています。春が来たらすぐに葉を開けるように、もう準備をしているのです。この観察会では、木の実や冬芽を観察しながら、花や葉以外の特徴を観察します。鳥の観察会に引き続き行います。

環境保全活動 -千町原の草刈り-

開催日時：2005年11月20日(日)9:30
集合場所：高原の自然館
準備：作業のできる服装、雨具、軍手等
チェーンソー、草刈り機、レーキなどをお持ちの方は持ってきて下さい。
参加料：500円(保険代・飲み物・昼食代)

かつては広い草原が広がる千町原が、次第に森林に変わりつつあります。10月9日の調査でも明らかになったように、土嶽は既に草原生鳥類が利用できない環境になっています。千町原全体がそうなってしまうと、もう手遅れです。少しずつでも今の環境を残し、良好な状態に近づけていきたいと思えます。昨年に引き続き、二回目の草刈り作業ですみんなで楽しく汗を流しましょう。前日のシンポジウムに出席すれば、活動の意義もよくご理解頂けると思えます。

花 だ よ り

セイタカアワダチソウ

最近は芸北にも増えており、冬の到来を告げる花になりつつあります。

木の実

今年は木の実が良く実りました。カンボク、アズキナシ、ズミなどは真っ赤な実をつけています。コナラ・ミズナラのどんぐりやトチノキもたくさん落ちています。ただし、ブナは全く実っていませんでした。

11月になり、自然館も冬季の休館まで一ヶ月を切ってしまいました。高原の自然館がオープンしてから2年目には、11月はじめに苜尾の初冠雪を確認しています。高原の自然史の表紙はその写真です。同じように、30cm近い積雪があって、ビニールハウスが潰され、車では自然館に近づけなかったこともありました。八幡の11月は、いつ雪が積もってもおかしくないのです。紅葉が良い季節ですが、寒さ対策だけはしっかりと整えていらしてくださいね。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館 (こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info